

キリスト・イエスは世に来られた

テモテー 1 : 12 - 17



司祭 ヨハネ 井田 泉

2022年9月11日
聖霊降臨後第14主日

敦賀基督教会にて

今日の使徒書の中には、キリスト教の中心的メッセージと
うべき言葉がありました。

「キリスト・イエスは、罪人を救うために世に来られた。」

テモテへの手紙一 1:15

この言葉を特に今日は心に留めたいと思います。

「キリスト・イエスは……」。普段わたしたちは「イエス・キ
リスト」と言っているのですが、ここでは順序が逆になってい
ます。今日朗読された範囲（1:12-17）でも「キリスト・イエス」
が4回繰り返されていました。「テモテへの手紙一」全体を確か
めてみたところ、「キリスト・イエス」が12回、「イエス・キリ
スト」が2回で、「キリスト・イエス」がこの手紙では圧倒的に
多いことがわかります。

ご存じのとおり「キリスト」は名前ではなく、救い主の称号
です。「キリスト・イエス」。キリストであるイエス。イエスが
キリスト、救い主であることを強調したいのでこの語順になっ
たのでしょう。

ところで「キリスト」の本来の意味は、「油を注がれた者」と
いうことです。旧約聖書では、王や祭司が任命されるときに油
を注がれて、神の権威と力を授かりました。油とは神の霊、聖
霊を意味しています。わたしたちの救い主イエスも、洗礼を受
けられたとき、神の霊が鳩のように降^{くだ}って来ました（ルカ 3:22）。

神の霊、聖霊を受けた方であるからこそ、イエスはわたしたちを救う力を持っておられるのです。

「キリスト・イエスは、罪人を救うために世に来られた。」

「世に来られた」。これはただ場所を移したという程度のことではありません。「世」はこの世界、神さまに反抗してもがく世界です。本来神さまに造られたものであったのに、神さまから離れてしまった世界。その中にキリスト・イエスは入って来られた。「世に来られた」と訳されていますが、ギリシア語原典を見ると「(中に) 入って来た」と書かれています。英語では“came into the world”です。

神の子が人となってこの世に来られた。聖なる方、清い方が、清くない世界に入って来られた。罪を知らない方が、罪の世界に入って来られました。罪と死をご自分の身に引き受けるためです。

パウロは言います。

「『キリスト・イエスは、罪人を救うために世に来られた』という言葉は真実であり、そのまま受け入れるに値します。」

テモテ 1:15

このことをぜひとも聞く人に分かってほしい、とパウロは願っています。

「キリスト・イエスは、罪人を救うために世に来られた。」

けれどもこれを言うとき、パウロの心には痛みがあります。
自分は、世に来られたこの方を迫害した者なのです。

**「以前、わたしは神を冒瀆する者、迫害する者、暴力を振る
う者でした。」 1:13**

イエスを救い主として信じるなどというのは憎むべき異端、
邪教であると、かつて彼は考えていました。最初の教会の指導
者ステパノを人々が石で打ち殺したとき、パウロもそれに賛成
し、荷担したのです。

ステパノを殺そうとした人たちは本気でした。今からすれば
狂気です。服を着ていては石を投げるのに邪魔になる。それで
服を脱いでパウロ（当時の名はサウロ）に預けた。服の番をし
ていたのがパウロです。直接石を投げていないとしても、パウ
ロはステパノの血に責任があるのです。

そしてパウロにはこういうことがありました。使徒言行録第9
章に記された回心の出来事です。シリアのダマスコにいるイエ
スの弟子たちを捕まえて殺そうと意気込んで、サウロは道を急
いでいました。ダマスコに近づいたとき、突然、光に打たれて
倒れました。

「サウル、サウル、なぜ、わたしを迫害するのか」 9:4
というイエスの声を聞きました。

彼は目が見えなくなり、手を引かれてダマスコに行きました。

そして心の闇の中で、「今までの自分は根本的に間違っていたのではないか」という思いが起こってきます。「自分は罪のない人を殺してしまったのだ。」そう思うと耐えがたく苦しい。食べ物も喉を通りません。ダマスコでユダという人の家に世話になっていたとき、アナニアという人が訪ねて来ました。そしてイエスのことを話して、手を置いて祈ってくれたときに、目からうろこのようなものが落ちて、目が見えるようになった。キリストの憐れみを受けた。赦しと新しい使命を受けました。サウロ——パウロの回心の出来事です。

サウロには人を殺そうとする暗い情熱が燃えていたのに、キリスト・イエスには人を生かそうとする愛の情熱が燃えていたのです。

この自分のために、罪人の最たる者（テモテ 1:15）である自分のために、キリスト・イエスは世に来てくださった。この方に逆らって荒れ狂っていたあのダマスコへの道まで、そして自分が闇の中で苦しんでいたユダの家にまでキリストは来られた。そしてわたしの心の中にまで、キリスト・イエスが入って来てくださって、この見えない者の目を開き、罪に滅ぶべき者を救ってくださった。

それを思うと、パウロの心には痛みが生じ、同時に感謝が溢れてくるのです。わたしは「憐れみを受けた」（1:13、16）と、

パウロは今日の箇所でも2回も言っています。

パウロのような重い過ちを抱えていなくても、わたしたちもまた神の前に罪人です。過ちと負い目を抱えています。そのわたしたちのためにもキリスト・イエスは来てくださった。

「キリスト・イエスは、罪人を救うために世に来られた。」

わたしたちを、わたしを救うために、救い主イエスはこの世に来てくださった。

この方が、今も、これからもずっと、わたしたちの中に、わたしの中に生きてくださいますように。

祈ります。

主イエスさま、あなたがわたしたちを救うために世に来てくださったことを感謝いたします。わたしたちを、この世にあってみ心を行う者にしてください。アーメン